教養卒論フォーマット　ータイトル・氏名のみ中央揃え―

14B00034大岡山　燕子

授業中に学生同士で読みあい（レビュー）をしますので，余白がないと，書き込めない．様式を守って書こう．論文の投稿についても，様式は指定されている．以下，教養卒論の様式について説明する（このあたりに規定文=thesis statementがくることが多い．授業中に扱う）．

タイトルを書くこと．参考文献を２冊以上用いること（立志プロジェクトの文献参照．だが，必ずしも含む必要はない）．段落最初は1文字下げる．小学校で習ったはずだが，忘れている学生が多いので注意！

「はじめに」や「序論」などのセクション分けを使っても構わない．また，最初にまとめや目次を作成してもいい．引用する時には（渡邉他 2014: pp 26-29）のように、(執筆者 年: 当該記載ページ)を書くこと．

本文のフォントは10.5か11ポイントの明朝体（英文や半角はTimesやCenturyなどのセリフ書体）を使用し，タイトルは14ポイントのゴシックを，学籍番号と氏名は12ポイントのゴシックを使用する．

　必要に応じて図表を利用してよい．ただし，図表は文字数には含めないので，紙面を埋めるためだけに意味のない図表を用いないように．本文にも図や表の番号を記載し，どの図表を参照するのかを明示する．不要な括弧や下線を用いない．アカデミックライティングでは，括弧や下線で文章を強調する手法はない．

自分の意見，他者の意見，事実を区別して扱う．他者の意見を引用せずに，自分の意見のように扱うと剽窃になる．

　最後に参考文献を示す．書籍の場合は，著者名，書名，出版会社名，出版年の順に，論文の場合は著者名，タイトル，論文誌名，巻号，出版年の順に，カンマで区切って記載する．

参考文献も論文の一部なので，本文と同じスタイルで記す．小さな文字にしたり，詰めて書くなどしない．挙げた文献の内容は，本文で必ず引用する．自分が勉強するために読んだ文献や辞書は記載しない．教科書やいわゆる参考書，辞書のようなものは通常挙げない．以下の参考文献欄に挙げたような文章作成法を参考文献に挙げないこと．ただし，ここの文書では様式の例として挙げている．

Webを参考とした場合，アドレスと閲覧した日付を記載すること．論文や書籍に同様の記載がある場合はそちらを優先する．Webの参照については，教養卒論では文献数に入れない．

　最終提出版はピアレビューをしないので，段落を1.0に設定して提出してもかまわない．

参考文献

木下是雄, 理科系の作文技術, 中公新書, 1981.

ケイト・L・トゥラビアン (著), 沼口 隆 (翻訳), 沼口 好雄 (翻訳)，シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル，2012.